

## 国外実態調査報告書

---

ゼミ名 : 木立 真直ゼミ  
訪問先 : オーストラリア株式会社大創産業  
Daiso Industries (Australia) Pty. Ltd.  
訪問日時 : 2019年9月4日(水)13時00分～14時00分  
ご対応者 : General Manager, General Management 大隅 剛志 様  
Retail Buyer 石橋 なおこ 様  
Assistant Manager, Supply Chain Management Elliot Chien 様  
訪問人数 : 学生17名 教員1名 計18名

### 【調査目的】

日系企業である Daiso の海外進出の経緯を知る。また、オーストラリアと日本の異なる環境やニーズを通じた Daiso の国際化戦略について調査する。

### 【調査結果】

今回の訪問では、はじめに大隅様より Daiso の歴史やオーストラリア事業について簡単にご説明いただいた。その後、3グループに分かれ大隅様、石橋様、Elliot 様に各部門のお話を伺い、質疑応答の時間を設けていただいた。

Daiso は創業 47 年を迎え、大創産業の先駆けとなる移動販売業務から事業を拡大している。2019年3月には新たに「だんぜん！ダイソー」というスローガンを掲げ、世界の生活インフラを担うことを目標に事業を行っている。オーストラリアでは 2013年4月に第一号店を開店、東側を中心に 37 店舗を展開しており、中国、台湾、シンガポール、アメリカ、ブラジルと同様に完全子会社として経営している。

大隅様からは主に Daiso の本部業務や組織形態についてお話していただいた。本部は人事、経理、物流、IT、仕入れの 5 部門に分かれており、合計 15 名で管理している。Daiso の経営方針は、店舗・現場重視の考え方であり、本部は店舗運営のサポート体制が整っているというお話を伺い、現場の声を大事にされていると強く感じた。

石橋様からは、店舗見学をしながら商品開発や仕入れ業務についてお話していただいた。店舗の在庫を管理し、売上実績や在庫回転率などから需要予測を行い発注数量の確定をすることで、Daiso の充実した品揃えを実現しているが、不確実性が常にある中で発注数を決定することは大変かつ責任のある仕事であると感じた。さらに食品規制の関係上、オーストラリアでは日本と同様の商品展開は不可能である。そのため、グリコや伊藤園、小林製薬がオーストラリア向けに開発した商品を取り扱うことで、日本商品の販売に努めている。

Elliot 様からは Daiso の物流についてお話していただいた。豪州 Daiso は完全子会社で

あるため本社が商品を発注する。その後世界各地の工場よりオーストラリアにある日本通運の委託倉庫に商品が届き、各店舗に配送される。特に、オーストラリアは前述の通り食料品等の規制が厳しく、品物が消毒処理されたことを証明する書類等の提出が義務付けられているというお話は印象的であった。

今回の訪問ではご対応していただいた皆様から Daiso に対する情熱や誇りを感じることができ、海外で実際に働かれているからこそのお話をいただける貴重な時間であった。私たちゼミ生にとって良い刺激となり、働くということを深く考えるきっかけとなった。

最後に、今回このような訪問の機会を設けてくださった大隅様、石橋様、Elliot 様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



(文責：林 凜子、河上 拓矢、暮石 亮、細川 美緒)